

#### 南雲 幹 先生に対してのご質問をご記入ください。

タスクシフト、シェアリングについて、現状を講演内でお話くださりありがとうございました。養成校は卒前教育、日本視能訓練士協会は卒後教育を担って、それぞれが連携することにより視能訓練士の知識と技術の向上、更には、社会的認知度の向上につながるように思いました。そのためにも、視能訓練士を養成する養成校と職能団体である日本視能訓練士協会のより一層の連携が今後の視能訓練士の活躍の場を拡大するためにも重要課題であるように思いました。

<質問>アイフレイルの活動について、小児の感受性期の過ごし方、子供の近視進行予防、（就学時の視覚障害に対する支援申請（起きる不自由を予想して備えると言う意味で）、デジタルデバイス使用時の環境や時間の指導、等も、その対象となりますでしょうか。

<回答>ご質問ありがとうございます。

まず「フレイル」は年齢を重ねて心身が弱る状態を指すもので、厚生労働省は高齢者の健康寿命延伸に向けた施策の柱として「フレイル予防、対策」を挙げ、すでに日本歯科医師会では、積極的にオーラルフレイルにすでに取り組んでいます。

アイフレイル事業は、日本眼科学会の日本眼科啓発会議が視覚障害の予防、早期発見を促すため2019年に「アイフレイル」をキーワードとして視覚の重要性を国民や行政に啓発していかうという、まだ始まったばかりの事業です。具体的な活動、事業内容等は今後、日本眼科学会が中心となり関連団体で準備検討されていくと伺っています。元気に老いるためにも視覚の重要性は必須要件です。フレイル対策は主に中高年を対象とした健康増進、予防、ケアのために取り組むものであり、視能訓練士も専門性を活かして参画できればと考えております。

お問い合わせの小児の目の健康を守るための取り組みに関しては、現時点ではフレイル事業の対象になっていませんが、非常に重要なことだと考えます。視能訓練士の役割として、小児の視覚の健康を守り、長い人生をできる限り快適な視生活をおくるための予防やその対策についても携わっていく必要があると考えています。

#### 小沢 忠彦 先生に対してのご質問をご記入ください。

視能訓練士の現状と未来のことについて医師の立場からご講演くださりありがとうございました。在宅医療についても、視能訓練士が視機能管理のエキスパートとしての力の発揮できる分野だと思いました。将来、医療福祉分野で必要とされる視能訓練士の養成に努めたいと思う講演でした。

ご講演や、討論会でのお話はとても参考になりました。

質問ではありませんが、ご講演中も討論会の間についても、男性は育休を取らない、ですとか、男性には准看護師資格を取らせてというようなお話がありました。確かに産休は女性のみが取得しますが、育休は男性でも取れる時代です。また、女性にもダブルライセンスを得て収入を上げたい方もいらっしゃると思います。女性職員の育休産休対応で苦労されている医療施設が多いのはよく理解しておりますし、残される職員の負担が大きいことから、多くの施設が男性を積極的に採用している事も良く理解していますが、未来についての話をしている中で、違和感を感じました。

#### 阿曾沼 早苗 先生に対してのご質問をご記入ください。

臨床現場での実習指導者の立場からのご講演ありがとうございました。学生の持つ問題点については、養成校の教員としても日々指導に苦慮しております。学生の気になるところと対応策について、わかりやすく説明していただきありがとうございました。今後の指導の参考にさせていただきます。

とても参考になりました。特に、AIとともに働いていくことを前提にいただいたお話参考に、色々準備をしていきたいと思いました。特に、AI導入後が変わっていく検査については、今後変えていく作業に視能訓練士も積極的にかかわっていくことも、できるとよいなあと思いながら聞いていました。特に質問はありません。

<質問>臨床実習のご指導をいつもありがとうございます。先生のお話の中に高卒の学生の基礎学力の不足というワードが何回か出ていたように思いました。確かに最近の学生を見ているとその傾向はあると思いますが、先生は3年制の専門学校教育でもはや無理とお考えでしょうか。あるいはそもそも大卒程度の知識や学問の経験が必要とお考えでしょうか。指定規則の改定なども控え、臨床で学生を指導していただいのご意見をお聞かせいただければありがたいと思います。

<回答>学生の学力や能力は個人差が大きいと実感しています。が、総じて高卒と大卒では基礎学力の差を感じており、患者さんへの対応やレポートの内容にもそれは顕著に表れています。また、専門外の見識は、現場や患者さんの多様なニーズに対応したり、新しい時代に柔軟に対応していくための力になると思います。したがって、大卒程度の知識や経験があるのが理想的とは思いますが、そこは真摯に取り組む姿勢があれば実習中でもカバーされますし、就職後も経験を積み大卒との差は埋まるものだと感じています。最も大きな差は、モチベーションと責任感かもしれません。なぜ視能訓練士になりたいのか、視能訓練士としてどんな仕事をしたか、自分の職場で何が自分ができるか、しなければならぬか、それを常に考えながら、努力を続ける学生（視能訓練士）が養成されればと思います。言われた事だけやる、同じことだけやる、ではAIや他の職種に仕事を奪われてしまうと思います。養成校での専門教育内で教えられることではないと思います。読書をさせると読み書きや一般教養、忍耐力が養われるような気がします。

#### 岡 真由美 先生に対してのご質問をご記入ください。

学校保健、他職種連携などそれぞれの内容についてわかりやすいご講演ありがとうございました。健診業務における視能訓練士の役割は、予防医学や早期治療の観点から考えますと、視機能の専門家としての非常に重要な位置付けだと思います。視能訓練士が持つべき専門性を十分に発揮できるように、養成校の教員としても学生教育に一層励んでいきたいと思いました。

近年の研究の中に、網膜疾患関連項目が多かったこと、その後の討論会における内科での画像関連業務、AI診断のための撮像の話ともつながっていくように思いました。特に質問はありません。

#### シンポジウム全体(討論会)を通してのご感想やご質問をご記入ください。

魅力ある視能訓練士像を学生が抱くには、現場で働く視能訓練士を見ることだけでなく学校教員の教育活動が重要だと思います。未来を担う視能訓練士を養成するためにも、教員が視能訓練士を取りまく社会情勢などについての情報を持つことが大切だと思います。現在、職能団体である日本視能訓練士協会の組織率は減少傾向にあります。視能訓練士の認知度、協会の魅力が伝わっていないということも問題ですが、教員の中にも協会に所属せず、協会に入ってもメリットがないということを学生に伝えているということを耳にしたことがあります。これは、一部の教員のことだと思います。今後活躍する視能訓練士を養成する教員として、視能訓練士の職域を守るということも考慮し、教員側の意識改革が必要ではないかと今回のシンポジウムを通して感じました。

WGの先生方、会長はじめご参加の先生方には大変お疲れ様でございました。

シンポジウムの先生方には忌憚なきお話を伺うことができ、大変有意義であったと思います。特に小沢先生に眼科医としてのご見解と、眼科診療の現状をお示しただけなのが予想以上のことでした。様々な問題が、この場の話だけで終わらず養成校の教員全体と現場の視能訓練士すべてに伝わることを願っています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

とても、興味深いテーマを設定していただきありがとうございました。

アイフレイル、在宅医療、内科への就職等、今後の学生指導の中で情報を提供していく必要があると感じました。指定規則のお話も会長からありましたが、AIとの共存や、職域の拡大を想定した改定となることを期待したいと思います。

先生方のご尽力にまず感謝申し上げます。

視能訓練士の実態調査から、周囲の声からも給与面などの待遇の不満はあり、その声も眼科関連団体に届いていることが確認できた有意義な時間となりました。

このディスカッションは、まず視能訓練士協会会員のみだけでなく視能訓練士取得者全てに周知していただきたいと切に思います。

個人的には、循環器内科、神経内科、リハビリ、保健で働く視能訓練士も必要であると考えます。

これまでの研修会でのグループワークよりも、こういった教育の問題点を話し合うことの方が、より視能訓練士教育の推進になると感じました。内容の充実した研修会であり、学校協会に所属する教員のどのくらいの割合が参加したのか気になります。こういった視能訓練士の職域の拡大を多くの先生が危機感をもつことが重要と思えました。視能訓練士が検査屋になってはいけないと思える研修会でした。